

平成28年度青森県公社等経営評価書

(平成27年度決算ベース)

法人名等				法人の自己評価(経営評価指標)				
12	青い森鉄道(株)							
所管課名	企画政策部青い森鉄道対策室							
決算状況 (単位:千円、%)								
出資	資本金	県出資額	県出資比率					
	2,900,000	1,995,300	68.8					
決算	前期純利益	当期純利益	利益剰余金等					
	2,447	10,496	▲ 350,370					
資産	資産	負債	純資産					
	4,280,408	1,730,778	2,549,630					
財務分析指標				上記についての所管課の意見・評価				
自己資本比率	総資産 経常利益率	県財政関与率	総資産回転率	売上高 経常利益率	【目的適合性】 ◎			
59.57	0.80	72.88	125.41	0.64	青い森鉄道株式会社は、地域住民の足を安定的に維持継続させるために上下分離方式において旅客運輸事業を行う第二種鉄道事業者として設立されたものであり、その目的に適合して事業を実施していると評価できる。			
販売管理費 比率	人件費比率	流動比率	借入金比率		【計画性】 ○			
98.68	27.26	259.81	0.00		平成28年度から5年間の中期経営計画の達成に向け、毎年度、計画に対する実績を分析し、経営改善を図るためのPDCAサイクルを着実に実施していく必要がある。			
経営評価結果								
評価区分	C:改善措置が必要							
<p><財務状況> 財務の状況については、平成23年度の全線開業以降、5期連続の黒字となっているが、当該黒字は、県に支払うべき線路使用料の減免(平成27年度:約4億2千9百万円)によって確保されている状況にあり、経営基盤は脆弱であると言わざるを得ない。 なお、平成28年度以降は、国による約6億円の新たな支援策により、改善が見込まれている。</p> <p><経営状況> 法人が自己評価した経営評価指標の項目については、経営の効率性について低調な評価となっていることから、適正な人件費水準の確保に向けた積極的な取組を求めたい。</p> <p><改善事項等> 当該法人における経営の基盤である鉄道事業収入の安定的確保のため、企画商品の沿線外へのPRやイベント列車の運行等、各種の取組を実施していることは評価できる。今後も、更なる利用者の増加に向けた積極的な取組を求めたい。</p> <p>また、平成29年度以降は、線路使用料全額の支払を見込んでいるが、これを計画どおり実行していくとともに、更なる経営の効率性及び経費節減の取組等を進め、累積赤字の圧縮にも努めていただきたい。</p>				<p>【組織運営の健全性】 ○</p> <p>安全で安定的な運行を第一とする鉄道事業者として、運輸安全マネジメントに基づく内部監査の実施や、異常時対応を定めたマニュアルの整備・訓練など、適切に行っているほか、中期経営計画の着実な推進に向けた経営基盤づくりなどに取り組んでいる。 また、プロパー職員の人材育成及び技術継承に取り組みながら、計画的にプロパー転換を進めていく必要がある。</p> <p>【経営の効率性】 ○</p> <p>プロパー社員転換を図っているものの、安全で安定した旅客輸送の確保の観点からプロパー社員の人材育成に時間を要しており、中期経営計画を上回っている状況であり、計画的に進めていく必要がある。 中期経営計画において、平成28年度からの青い森鉄道に対する新たな国の措置に加え、青い森鉄道株式会社の増収策及び経費削減に向けた取組により収支改善を図ることとしており、着実に実現していくことが求められる。</p> <p>【財務状況の健全性】 ○</p> <p>青い森鉄道株式会社の営業損益は、中期経営計画を上回ったものの、多額の線路使用料の減免を受けている状況にあり、より一層の収支改善を図る必要がある。</p>				